

核兵器廃絶を求める決議

核兵器を廃絶し、戦争のない平和な世界を実現することは、唯一の被爆経験国である日本はもとより、人類共通の願いである。

しかしながら、今なお1万数千発の核兵器が現存するとされ、核実験を実施している国もあることから、人類は大きな脅威にさらされ続けている。また、民族、宗教、経済的利害の対立などにより、世界各地で武力行使が行われており、核兵器の拡散も懸念されている。

こうした中で広島、長崎の被爆者を先頭に核兵器の非人道的残虐性を告発してきた日本の市民運動が大きな役割をはたし、核兵器廃絶を求める世論は世界を動かしている。

そこで、昭和61年に「非核平和町宣言」をおこなった平群町議会としても全人類の幸福と世界の恒久的平和の実現を目指すため、核兵器廃絶を関係諸国に対し強く求めるものである。

以上、決議する。

平成29年9月21日

奈良県生駒郡平群町議会

衆議院議長	大	島	理	森	殿	
参議院議長	伊	達	忠	一	殿	
内閣総理大臣	安	倍	晋	三	殿	
総務大臣	野	田	聖	子	殿	
外務大臣	河	野	太	郎	殿	
防衛大臣	小	野	寺	五	典	殿
内閣官房長官	菅		義	偉	殿	